

# 牛久：学校周辺に見る自然

第45号 ひたち野西近隣公園

2011年10月16日発行

## ＜ 秋の水辺公園を歩く ～チョウの仲間 ＞

だいぶすずしく、秋らしくなってきましたね。そんな9/28と10/4、予定していた仕事がなく  
なかったので、どんぐり拾い<sup>ひろい</sup>をかねて、水辺公園を歩いてきました。観察したなかで、特にいろいろな種  
類が見られたチョウの仲間を紹介しましょう。まずは、シジミチョウの仲間から。



ヤマハギの花みつを吸うツバメシジミのメス。はねを開くと、表は黒っぽい（右）。オスでは青く輝く。

何度か登場しているツバメシジミです。はねの表が黒っぽいのでメスでしょう（オスは青くかが  
やく）。いろいろな花にみつを吸いにきますが、幼虫がマメ科植物の花や新芽<sup>しんめ</sup>などを食べるからか、  
このヤマハギなどでよく見かけます。



ヤマハギの花みつを吸うウラナミシジミ（左）。  
オスのはねを開くと、表が青く輝く（右）。

続いて、秋になるとよく見かけるウラナミシジミ。  
春や夏のさかりには見られないので、やはりこの辺  
では冬を越せ<sup>こせ</sup>ないのでしょうね。

そして、毎度おなじみのベニシジミ。ハッカの花を次々と渡っ  
ていって、ストローをのぼし、花のみつを吸っていました。写  
真のように、すぐそばにハエやハナアブがきてもおかまいなし。  
ただし、ハチが来た時には飛び立ちましたが。私自身は、葉をも  
んで、香りを楽しみ<sup>かおり</sup>ました。とてもよい香りですよ。

ハッカのみつを吸うベニシジミ。反対側ではツマグロキンバエが吸っている。







はねを休める南方系のチョウ、ツマグロヒョウモンのめす。

次は、タテハチョウ科の仲間。

もともと南方系なんぽうけいのチョウで、温暖化おんだんかにともななって分布ぶんぷを北に広げているのではないかとされている、ツマグロヒョウモン（写真はメス）。パンジーなえの苗とともに広がっているとも言われ、注目されています。東京では、ベランダのパンジーで、幼虫じょうちゅうが冬を越したという情報じょうほうもあるようです。温暖化えんきょうの影響えんげいなのか、園芸という人のはたらきによるのか、その両方なのか、気になるところです。



北上するが越冬できない？南方系のチョウ、ヒメアカタテハ

こちらは、ちょっと似ていますが、ヒメアカタテハ。ウラナミシジミと同じく、南から移動いどうしてきますが、この辺で冬を越すのはやはりむずかしいようです。秋には当たり前のように見かけますが、私はまだ、春には見たことがありません。ただし、真冬まふゆに成虫を見たとか、幼虫ようちゅうでも越冬えつとうするという話もありますので、分布を広げつつあるのかもしれませんが、やはり、注目のチョウです。



池のふちで吸水するキタテハ（左：成虫越冬）と、はねを休めるメスグロヒョウモンのめす（右：幼虫越冬）。

そして、牛久せいちゅうでも成虫で冬を越すキタテハ（左）と、幼虫で越冬するメスグロヒョウモン（右）。キタテハは成虫越冬なので春早くから見られ、タテハチョウ科の代表ともいわれますが、この時期は、熟じゆくししすぎたり、落ちて腐くさってているカキなどととまって、汁しるを吸っているのをよく見かけます。この日は、春にヒキガエルのオタマジャクシがたくさん見られた池のふちに、水を吸いに来ていました。

メスグロヒョウモンは、名前の通りメスだけが黒っぽい色をしています。オスはひょう柄で、他のヒョウモンチョウの仲間と区別けつべつしにくいです。一度、牛久自然観察の森で、交尾こうびしているのを見たことがあります。とても同じ種とは思えませんでした。別々に飛んでいたら、まちがえたかもしれません。トンボでもそうでしたが、チョウでも、おすとめすとまったく違うもようをしているのいれば、似ているけれど区別できるもの、そっくりで区別しにくいものなどいろいろのようです。トンボやチョウじしん自身は、どうやって区別しているのでしょうか？いつか、そうした話もしてみたいですね。





ヤマハギの花みつを吸うジャコウアゲハのおす。

さて、<sup>おおがた</sup>大型であざやかなチョウというとな、すぐにかぶのがアゲハの仲間ではないでしょうか？この日は、ヤマハギのみつを吸いに、**ジャコウアゲハ**が3頭あられました

よ。幼虫が<sup>どくそう</sup>毒草ウマノズクサの葉を食べて育つので、成虫も体内に毒をたくわえています。そのため鳥などに<sup>おそわれ</sup>襲われにくいからか、他のアゲハよりも、ゆったりと飛んでいるように見えます。オナガアゲハなどに似ていますが、体の横に赤いもようがあるので区別できます。写真はオスですが、メスではオスの赤い部分が黄色っぽくなっていて、はねの黒もうすく、黄白色を帯びています。



ヤマハギの花みつを吸うキタキチョウ(左)とハッカのみつを吸うキタキチョウ(右)。

モンシロチョウの仲間では、おなじみの**キタキチョウ**があちこちで見られました。とくにヤマハギとハッカにはよくとまってくれて、写真もとりやすかったです。長いストローをさしこんで、おいしそうに吸っていました。

最後に、ガとよくまちがえられるチョウを2種。セセリチョウ科の仲間は、その色や<sup>すがた</sup>姿からガと思われがちですが、チョウの仲間とされています。写真は**イチモンジセセリ**で、ハッカの花みつを吸って

いました。ジャノメチョウ科の仲間も同様です。写真は**ヒメジャノメ**。でも、ガとチョウとはたくさん<sup>きじゆん</sup>の基準で分けていますが、どれも例外が多く



ハッカの花みつを吸うイチモンジセセリ(左)と、はねを休めるヒメジャノメ(右)。

くつきり区別できないようで、全部ひっくるめて「ガやチョウの仲間」でよさそうですね。

【理科支援員 宮内】